



今回のホシノシンブンは小泉進次郎さんとの対談特集号です。総裁選から地元神奈川県のお話まで、幅広いトピックテーマでお話しいただきました。

総裁選について

―星野 進次郎さん、総裁選挙に出馬してまさに一番お忙しいなか、対談の時間をといただきありがとうございます。

―小泉 いえいえ、同じ神奈川の仲間

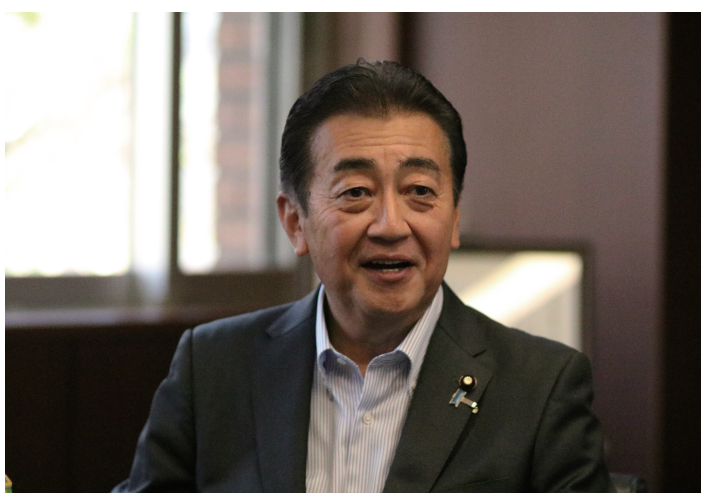
衆議院議員・元環境大臣

小泉進次郎

衆議院議員・衆議院内閣委員長

星野つよし

特別対談



の星野さんから総裁選挙ではサポートをいただき、本当に嬉しいです。

―星野 今の自民党を本当に改革できるのは、進次郎さんしかいない。そう信じて、ぜひ総裁選挙に出て欲しいと願っていました。微力ながらお支えます！

―小泉 まさに改革が必要な時期に、自民党を本当の意味で改革できるのは誰かが問われる総裁選挙です。コロナ禍で疲弊し、政治不信もあり、世界経済も必ずしも安定していないなかで改革を唱えるだけでなく、改革を、期限を切って実行する政治家が求められているという政治信念のもと、総裁選挙に手を挙げました。

―星野 我々国会議員は、国会の場で議論することが仕事と思われていますが、やはり政治家は最後、決断をしなければならぬ。改革を訴えるのはどんな政治家でも訴えると思うんですが、やはり実行力が必要なんですよ。

―小泉 私は総理総裁になったら、この国が長年ずっと議論ばかりを続けて答えが出ていない様々な課題について、決着をつけたいと考えてい

ます。一年以内に実現する改革と中期を見据えた改革の方向性を国民の皆さまに説明したら、直ぐに実行するために、そのプランの是非について、国民の皆さまに信を問います。それぐらいにスピード感をもって対応していくことが求められているはずですよ。

―星野 国家をデザインして、国民にそれを問い、認められればすぐに実行に移す、まさにリーダーの役割ですね。

―小泉 とにかく、議論は大事だけれど、議論の終着点として「決着」をしなければならぬ、ということなんです。

政治とカネへについて

―星野 「決着」という言葉には、やはり自民党が招いた一連の政治不信に対する思いもあることでしょう。

―小泉 はい。自民党の政治とカネの問題が国民の皆さまに政治不信を招いたことは事実ですし、この問題にも決着をつける必要があります。私は、「政策活動費」を廃止すること、「調査研究広報滞在費」の使途は公開し、残額は国庫への返納を義務付けることを総裁選でお訴えています。当然、政治資金問題を抱えた議員は、国民への説明責任を果たし選挙で信認を受けるまで要職に起用しないとも約束しています。これらのことは、いづれ国民に信を問うときにも大きなテーマになることは明らかです。

―星野 当然のことですね。

―小泉 ところで、星野さんはこうした政治とカネの問題にはこれまで無縁でしたよね。

―星野 私は進次郎さんと一緒に、初当選以来無派閥を貫いてきました。派閥は政策集団とも言われてき

ましたが、近年の派閥は人事面であつたり資金面であつたりと、利権の巢窟になっていたと思います。

―小泉 派閥に関しては、私は総裁選挙出馬会見でも、派閥は人事と金を切り離すことと、私が総裁になったらいかなるグループからも人事の推薦は受け付けないと約束しました。総理総裁の職はまさに国家の経営者なので、から、「適材適所」という当たり前をやるようよ、ということなんです。

―星野 お父様の小泉純一郎元首相も、総裁になった時には派閥の意向にとらわれず、適材適所に徹した人事を断行しましたね。あの時も女性閣僚が一気に増えたり、最近は見なくなつた民間閣僚登用などもありました。

―小泉 具体的な人事などはまだ考えていませんが、派閥の推薦といった古い政治ではなく、改革に基づいた人事をやっていきたいと思います。





地元神奈川について

―星野 進次郎さんは、自民党神奈川県連の会長としても活躍中です。

―小泉 2年前の4月、かながわ自民党の会長に就任しました。コロナ禍で日本が疲弊しているなか、政治がもっと国民の方を向き、国民の声を聞かなければならないとの思いで会長職を引き受けましたが、その際には神奈川には政治の先輩も多いことから、「チームかながわ自民党」をつくっていくことをお話ししました。

―星野 進次郎さんは、チームプレーが大変重要だというお話をよくされますね。

―小泉 星野さんは神奈川12区（藤沢市・寒川町）、私は神奈川11区（横須賀市・三浦市）が選挙区で

思っています。その点、星野さんもアウトドア派ですよ。

―星野 私も政治家になる前は産経新聞の記者をしていましたが、「夜討ち朝駆け」といって、深夜早朝にも取材するように家の前で長時間も待機したり、取材対象者と何日間も同行したり、体力の必要な仕事をしていました。政治は現場で起きているという考えは、まさに小泉さんと一緒です。

―小泉 星野さんに取材される政治家は大変だったでしょうね（笑）。でも、とにかく星野さんと私のポリシーは、今の自民党全体に必要なことだと思っています。今こそ政治家はチームになって、もっと外に出ないといけない。

―星野 進次郎さんのPR力にも期待しています。やはり外に出て政策を訴えること、これこそが進次郎さんの強みであり、チームワークのなかで進次郎さんが一番強みとするところですね。

―小泉 去年の夏に、東京電力福島第一原発の処理水海洋放出を、「汚染水」などと科学的根拠のない言葉を投げかける人がいたときに、私は福島・南相馬の海岸を訪れて、サーフィンをして安全性をPRして、広く報道していただきました。根拠のない批判や悪口には、しっかりと行動で示していくのが私のポリシーです。

―星野 本場に同感です。ぜひまた藤沢・寒川にも来て魅力発信のPRをください。進次郎さんはサーフィンが好きでしょうから、ぜひ鶴沼でやりましょうよ。

―小泉 鶴沼は日本サーフィン発祥の地ですね！来年の夏は鶴沼でサーフィン、やりたいなあ。星野さん、一緒にもっともっと魅力発信、やっていきましょう！

地域活動報告

星野剛士衆議院議員は、衆議院内閣委員長として今年の通常国会でも多くの職責を果たしてきます。



衆議院内閣委員会では、自転車の交通違反にも自動車と同様に反則金を納付させる、いわゆる「青切符」による取締の導入を盛り込んだ道路交通法の改正や、経済安全保障の観点から重要情報へのアクセスを国が信頼性を確認した人だけに限定する「セキュリティー・クリアランス」制度の創設に向けた法律の制定など、重要な立法措置に委員長として関わってきました。

地元では引き続き街頭演説を藤沢市内各地で精力的に行っているほか、台湾東部沖地震の募金活動を寒川町で実施しました。また、地域活動にも積極的に顔を出しています。自民党の無派閥議員として、市民町民に近い距離で寄り添うことをモットーに、これからも活動をして参ります。



地元藤沢市の『みどりいっぱい市民の会』花植えボランティアに参加



藤沢駅南口街頭演説を浅尾慶一郎参議院議員と一緒に



台湾東部沖地震の募金活動を自民党寒川町連合支部で実施



衆議院本会議で、道路交通法改正案の委員会可決を内閣委員長として上程